

平成30年度 総社小学校 学校評価書資料

学校 経営 目標	具体的計画	30年度の達成基準	自己評価（中間）			自己評価（最終）			学校関係者評価
			達成状況	評価	改善策	達成状況	評価	改善策	自己評価の適切さ
1 心 の 教 育 の 充 実	【やさしい子】 ①道徳教育，人権教育，だれもが行きたくなる学校づくりの取組を充実することにより，児童が気持ちのよいあいさつや思いやりの心を生活の中で実践することができるようにする。 （総社を愛す子供）（心優しい子供）（礼儀正しい子供）	①進んであいさつができていているという回答が85%以上である。 （児童，保護者，教職員） 【人間関係・特別支援教育】	教職員：95% 保護者：81% 児童：89%	A	・達成基準に到達しているが、2学期が始まって全体的に元気がない。総社小のあいさつのめあて「大きな声で・進んで・顔を見て」を意識できるよう、クラスで確認し指導していく。 ・10月1週目に「あいさつ強化週間」があるので、児童会を中心に全校であいさつ運動を盛り上げていくようにする。				
		②思いやりの心をもって生活しているという回答が85%以上である。 （児童，保護者，教職員） 【人間関係・特別支援教育】	教職員：100% 保護者：96% ○友達への優しさ 児童；95%  ○友達の優しさ 児童；91%	A	・現状の取組を継続しながら、さらに学級内のピア・サポートやSELの充実を図る。 ・児童同士の呼び方や先生が児童を呼ぶときの呼び方は、授業中は「さん」、休み時間でも呼び捨てにしないなど、親しい仲にも礼儀をもって呼び、人権意識を喚起できるようにする。				
		③誰もが活躍できる機会を作ったり児童同士のつながりを強める活動を設けたりしているという回答が80%以上である。 （保護者，教職員） 【生徒指導・保健安全】	教職員；84% 保護者；92%	A	・学級内で、発表の機会や協同学習、グループ・ペア活動等を積極的に取り入れ、授業の中で活躍できたりつながりを強めたりする機会を意識して設定する。 ・計画的な縦割り活動（掃除・仲良し遊び）やピア・サポート活動により、学年を越えて遊んだり学習サポートを行ったりして、児童同士の関係づくりを進めていく。 ・3学期の総小フェスティバルが1年間の縦割り活動の総仕上げとなるように意識して、関係づくりを進める。				
2 健 康 ・ 体 力 づ く り	【たくましい子】 ②健康教育，特別活動を充実することにより，児童が基本的な生活習慣を身に付けるとともに，目標を持って主体的に体力作りに取り組み、最後まで粘り強く頑張る心を育てる。 特に清掃を黙って時間一杯取り組めるようにする。 （礼儀正しい子供）	④基本的な生活習慣が身に付くように取り組んでいるという回答が80%以上である。 （児童，保護者，教職員） 【生徒指導・保健安全】	教職員；93% ○早寝・睡眠 保護者；79% 児童；73%  ○メディアルール 保護者；77% 児童；76%	B	・早寝のとらえ方が親の意識と児童の意識では違いがあるように思われるため、保健委員会を中心に、早寝についてのアンケートを行ったり睡眠の大切さについて給食時間に放送を入れたりして、睡眠についての正しい知識を保護者と児童に知らせて意識づける。 ・メディアのルールを設定して守ろうと、努力する姿が見られるようになってきた。メディアコントロールにより自分をコントロールする力をつけさせたいという目的をはっきりと伝え、メディア週間や講演会等を通じて、家庭でルールを作る意味を繰り返し啓発し、意識できるようにする。				
		⑤掃除を黙って時間一杯取り組んでいるという回答が80%以上である。 （児童，教職員） 【生徒指導・保健安全】	教職員：93% 児童；92%	A	・1学期に設定した「だまって掃除」の取組を2学期は継続して行い、「ピア・サポート週間」と「無言週間」の定着を図る。 ・学級掃除も黙ってできるように、掃除場所や人数等の調整を行う。				

3	【すすんで学ぶ子】 ③特別支援の充実を図るとともに、児童が主体的・対話的で深い学びを実践し基礎学力を身に付けることができるようにする ④生活科、社会科、総合的な学習の時間の充実により、地域を知るとともに地域に貢献しようとする児童を育てる。(総社を愛す子供)	⑥授業が分かりやすいという回答が85%以上である。(児童、保護者、教職員) 【校内研究推進】	教職員：90% 保護者：86% 児童：92%	A	・現状の取組(特別支援の視点を取り入れた授業づくり、協同学習などの伝え合いの方法の工夫等)を継続して行う。			
		⑦進んで学習に取り組んでいるという回答が85%以上である。 (児童、保護者、教職員) 【校内研究推進】	教職員：97% 保護者：85% 児童：89%	A	・現状の取組(デジタル教科書やICT機器の活用による視覚支援、児童が主体的に学習に取り組めるような学習課題の設定や授業展開の工夫等)を継続して行う。			
		⑧国語と算数の単元テストの基礎基本項目(国語：言語、算数：知識・理解・技能)で80点以上の児童が、80%以上である。 (教職員) 【校内研究推進】	教職員：55%	C	・単元に入る前に単元全体を見直して、教えるべきことを教師がはっきりさせた上で指導する。 ・その日の学習内容と宿題の内容を関連づけ、基礎・基本の定着を図る。 ・昨年度のデータをもとに、事前に弱点を把握して指導に臨む。			
	⑤靴やロッカー等の整頓に心掛け学習環境を整えるとともに家庭学習や読書の習慣を定着させる。 (礼儀正しい子供)	⑨靴をそろえるように取り組んでいるという回答が80%以上である。 (児童、保護者、教職員) 【校内研究推進】	教職員：83% 保護者：70% 児童：83%	B	・懇談などで、靴そろえの意義を伝える。 ・週に1~2回は、担任・児童ともにチェックし、繰り返し指導する。			
		⑩学年×10分+10分勉強しているという回答が80%以上である。 (児童、保護者、教職員) 【校内研究推進】	教職員：91% 保護者：75% 児童：88%	B	・12月の懇談や強化週間等の機会に、家庭への啓発を図る。			
4	開かれた学校づくり ⑥各種の便り、ホームページの更新、学校評価、学校公開等により、積極的に情報を発信する。	⑪学校から積極的に情報発信が行われているという回答が85%以上である。 (保護者、教職員)	教職員：81% 保護者：92%	B	・学年便り、校長室便り、保健便り、図書便り等の便りの発行やホームページの定期的な更新などの現状の取組を継続して行う。 ・すぐメールをもっと活用し、保護者へのよりタイムリーな情報発信に努める。 ・保護者のニーズに合った情報を発信できるように、担任等に寄せられる保護者からの声を共有できる体制を整える。			
		⑫いじめになりそうな事案に即座に対応し、学校での対応について保護者へ連絡や発信を行っているという回答が80%以上である。 (保護者、教職員)	教職員：95% 保護者：76%	B	・いじめになりそうな事案について、生徒指導担当に情報を集約し、学校として複数の教職員で対応できる体制を確立する。 ・学校での対応について、担任から該当児童の保護者へより迅速な連絡ができるよう心掛ける。			
	⑦きらめきEASTの幼稚園、小・中学校や家庭・地域、関係機関等との連携を深め、児童の安全、健全な成長を図る。	⑬校舎改築に伴う安全策を工夫し、校外の安全確保の取組を行っているという回答が80%以上である。 (保護者、教職員)	教職員：95% 保護者：95%	A	・学校支援ボランティアなどで、保護者や地域の方の協力をさらに得ながら、大勢の目で児童の登下校を見守る体制づくりを進めていく。 ・廊下の右側歩行や運動場の使い方などのルールを徹底し、校舎改築に伴う限られた環境での児童の安全意識を高めるようにする。			